

【参考資料】

日本経済新聞 令和7年4月24日（木）

賃金上昇、医療費に消える

大企業健保料率、最高の9.34%

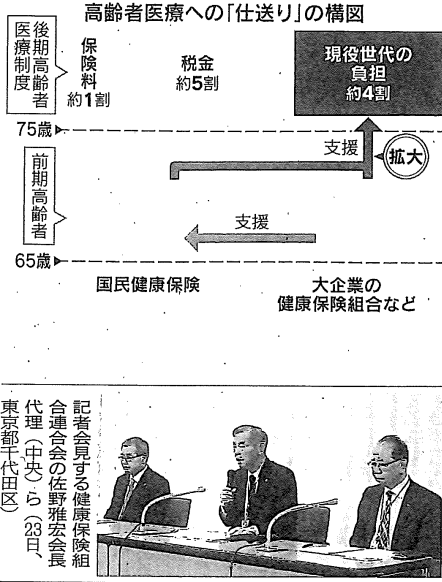
消費拡大に向かわず

健康保険組合連合会（健保連）が23日に発表した2025年度予算の早期集計で、大企業の従業員が入る健康保険組合の平均保険料率は過去最高になった。高齢者医療への拠出が膨らんだのが要因だ。給付と負担のバランスを見直さなければ、賃上げが進んでも現役世代の消費拡大はおぼつかない。

およそ1400ある健康保険組合自身の保険料が保組合の平均保険料率は約1割、税金が約5割、9.34%で、24年度予算比で0.03割上昇する。赤字の健保組合は全体の76%にあたる1043組合にのぼる。

支出増の要因の一つは高齢者の医療費への拠出だ。75歳以上が全員入る後期高齢者医療制度は、後期高齢者自身の保険料が

およそ1400ある健康保険組合自身の保険料が保組合の平均保険料率は約1割、税金が約5割、9.34%で、24年度予算比で0.03割上昇する。赤字の健保組合は全体の76%にあたる1043組合にのぼる。



記者会見する健康保険組合連合会の佐野雅宏会長代理（中）ら（23日、東京都千代田区）



現役世代の負担が重く、高齢者への『仕送り』の割合が高い傾向がずっと続いていると説明した。高齢者拠出金は25年度の3兆8933億円から27年度は4兆円に達する可能性がある。

「若い人がなかなか消費に向かわない。社会保険料は右肩上がりが増え、若者が負担する分断や格差を避けて公正・公平な社会保障にしないと、高齢者拠出金が4割を占める。経団連の十倉雅和会長は24年12月にこう語り、税と社会保障の一体改革が必要だと訴えた。

厚生年金の保険料率は17年9月に18.3%で固定した。現役世代の負担を抑えるには、医療・介護の歳出改革が欠かせない。財務省によると、医療・介護の保険給付費は23年度に年2.9%のペースで伸びた。この間の雇用者報酬の伸びは年1.8%にとどまる。給付費の伸びに届かない部分は、保険料率の引き上げで穴埋めしてきた。財政制度等審議会（財務相の諮問機関）は23日に開いた分科会で「医療・介護給付費と雇用者報酬の伸びを同水準にする必要がある」と訴えた。

医療費の増加要因のうち、高齢化などの人口要因は半分ほどに過ぎない。ほかは新規医薬品の保険適用や医師数・医療機関の増加、診療報酬改定などの影響という。保険料負担を抑えるには、これらの改革が急務となる。現役世代の負担抑制策はかねてから議論されてきた。現役世代と同じ窓口負担3割となる後期高齢者の対象拡大、市販薬と効果やリスクが似る「OTC類似薬」の保険適用からの除外などだ。一方で日本医師会の松本吉郎会長は23日の記者会見で「賃金上昇と物価高騰、医療の技術革新への対応には十分な原資が必要だ」と述べ、診療報酬の引き上げを要求した。

25年の春季労使交渉の賃上げ率は2年連続で5%台の高水準になる見通しだが、同時に社会保険料も上がれば効果は薄れる。賃上げが消費拡大に結びつかなければ企業の設備投資意欲は高まらず、成長と分配の好循環は実現しない。

26年度は診療報酬改定の年にあたる。年末にかけた予算編成プロセスの中で、どれだけ医療の効率化を進められるかが問われる。

毎日新聞 令和7年4月24日(木)

保険料率最高9.34%

25年度

健保連 赤字額は改善

健康保険組合連合会(健保連)は23日、全国の健保組合の2025年度予算推計をまとめ、平均保険料率が前年度比0.03%増の9.34%と過去最高になったと発表した。1人当たりの年間保険料は同1万7269円増の54万4143円(原則は労使折半)となる。前年度6582億円だった経営収支赤字額は3782億円に改善した。被保険者数の伸びと春闘による賃上げ効果の影響が要因とみられる。ただし1372組合のうち、赤字組合数は1043と全体の76%を占め、厳しい状況を脱していない。高齢者向けの医療費を支える拠出金が増え続け、特に団塊の世代が全員75歳以上に入ったことで後期高齢者医療制度の財政を支えるために拠出する支援金の伸びが大きい。

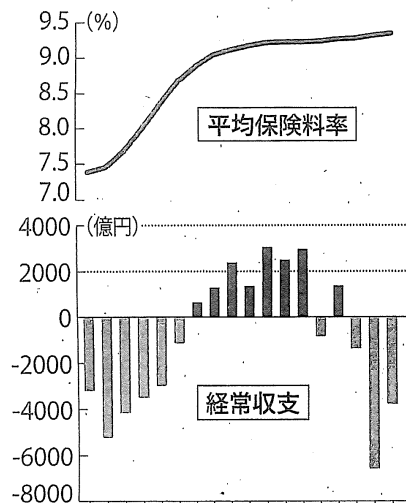
佐野雅宏会長代理は、義務的経費(法定給付費と拠出金)に占める拠出金の負担割合が4割を超える状況が常態化し、現役世代の負担が大きい傾向が続いていることを指摘。「拠出金の見直しなどで高齢者と現役

世代の負担のアンバランスを解消しなければならぬ」と述べた。

全国の健保組合には、主に大企業の従業員やその家族ら約2800万人が加入している。

【阿部絢美】

健保組合の経営収支と保険料率の推移



2008年度 09 11 13 15 17 19 21 23 25
 ※08～22年度は決算、23年度は決算見込み、
 24年度は予算、25年度は予算推計

朝日新聞 令和7年4月24日(木)

企業健保の料率 過去最高

今年度平均9.34% 高齢者世代への拠出増

大企業の会社員らが加入する健康保険組合の今年度の平均保険料率が9・34%となり、過去最高になる見通しだ。医療費の伸びや高齢者世代への拠出金の増加で、2025年度は149組合が保険料率の引き上げを予定している。健康保険組合連合会(健保連)が23日公表した。

健保連は各組合からの報告をもとに今年度の収支を推計。全1372組合の収入は計9兆3936億円(前年度比3878億円増)、支出は計9兆7717億円(同1078億円増)。予算ベースで3782億円の赤字になる。組合ごとに見ると、全体の76%を占める1043組合が赤字を見込んでいる。

組合に請求される医療費にあたる保険給付費は計5兆1524億円で前年度から785億円増。65〜74歳の人が多く加入する国民健康保険や、75歳以上の人が加入する後期高齢者医療制度の財源にあてられる健保組合からの拠出金も、前年度より142億円多い計3兆8933億円に上る。

健保連は、団塊の世代の全員が75歳以上となる今年度以降も拠出金は増えるとみている。

健康保険料は、毎年4〜6月の月収をもとに決まる「標準報酬月額」に保険料率をかけて算出される。平均保険料率は今の制度が始まった08年度には7・38%だった。今年度は9・34%の見通しだが、さらに上がる可能性がある。

中小企業の会社員らが加入する全国健康保険協会(協会けんぽ)の平均保険料率は10%。健保組合の保険料率が10%を超えることは、組合が解散を検討する一つの目安とされる。健保組合が解散すると、独自に取り組み福利厚生がなくなる。(足立業摘)

■ 健保組合の経常赤字3782億円に縮小

25年度予算早期集計

健保連は23日、健保組合の2025年度予算早期集計結果を発表した。経常収支は3782億円の赤字となり、赤字額は前年度予算早期集計時よりも2800億円縮小した。平均保険料率は0.03ポイント上がり、9.34%となった。

1372組合の予算を集計した。経常収入は、前年度予算比4.3%増の9兆3936億円。被保険者数の伸びや賃上げの効果で保険料収入が伸びたことなどが要因だ。経常支出は1.1%増の9兆7717億円。保険給付費は1.5%増の5兆1524億円。高齢者拠出金等は0.4%増の3兆8933億円。赤字組合の割合は76.0%だった。

拠出金等のうち、前期高齢者納付金は22年度のコロナ感染拡大の影響を精算した前年度の反動などで、2.7%減の1兆5577億円となった。一方、後期高齢者支援金は、後期高齢者数の増加などを背景に2.5%増の2兆3353億円となった。法定給付費と高齢者等拠出金を合わせた義務的経費に占める拠出金の割合は43.6%。拠出金の割合が50%を超える組合は、全体の10.5%となった。

24年度決算の現時点での推計も明らかにした。経常収支は1000億円の赤字で、24年度予算早期集計時よりも赤字額は約5600億円改善する見通しだ。賃上げの影響で保険料収入が予算集計時より2600億円増加する一方、保険給付費などが2900億円減少した。

厚生労働省で会見した佐野雅弘会長代理は、賃上げによる保険料収入が増加している状況にもかかわらず24年度決算の見通しが赤字を計上したことを踏まえ、「厳しい状況にある」と強調。拠出金割合が長年にわたって40%を超えていることを問題視した。

これまでの高齢者医療制度改革には、拠出金割合などが大きく伸びていないことを踏まえ、「一定の効果はあったと思う」としたが、「構造的な改善には至っていない」と指摘。全世代型社会保障の実現に向けた改革工程表の着実な推進を訴えた。

令和7年度 健康保険組合予算編成—早期集計結果（概要）について—

令和7年4月23日
健康保険組合連合会

I. 令和7年度予算編成（早期集計結果）の概要

- 1) 令和7年度予算の経常収支差引額は、3,782億円の赤字となる見通し。約8割の組合が赤字へ。
- 2) 保険料収入は、被保険者数の堅調な伸びと賃金引き上げ効果を反映して、対前年度予算比＋4.3%（＋3,829億円）の増加。
- 3) 保険給付費は＋1.5%（＋785億円）の増加とやや低い伸び。3～5年度の新型コロナ等の感染症流行時に比べ、6年度が落ち着いていることを見込んだ結果と考えられる。
- 4) 高齢者等拠出金は＋0.4%（＋142億円）の増加。前期高齢者納付金は、4年度の新型コロナ感染拡大の影響を反映（精算）した6年度納付金の大幅な増加（対R5年度比＋6.8%）の反動もあり、▲2.7%（▲435億円）と減少する一方、後期高齢者支援金は、後期高齢者数の増加を反映し、保険給付費の伸びを上回り＋2.5%（＋576億円）の増加。

令和7年度予算早期集計（速報値）：経常収支の状況

主な項目	令和7年度予算 早期集計【速報値】	令和6年度予算	対前年度比	
			増減額	伸び率
経常収入計（①）	9兆3,936億円	9兆0,057億円	3,878億円	4.3%
保険料収入	9兆2,685億円	8兆8,856億円	3,829億円	4.3%
経常支出計（②）	9兆7,717億円	9兆6,640億円	1,078億円	1.1%
保険給付費	5兆1,524億円	5兆0,739億円	785億円	1.5%
拠出金等計	3兆8,933億円	3兆8,792億円	142億円	0.4%
（再掲）後期高齢者支援金	2兆3,353億円	2兆2,777億円	576億円	2.5%
前期高齢者納付金	1兆5,577億円	1兆6,012億円	▲435億円	▲2.7%
保健事業費	4,765億円	4,672億円	92億円	2.0%
経常収支差引額（①-②）	▲3,782億円	▲6,582億円	2,800億円	－

適用・ 財政指標	組合数	1,372組合	1,379組合	▲7組合	－
	被保険者数	1,702万8,075人	1,686万4,711人	16万3,364人	1.0%
	被扶養者数	1,104万3,419人	1,139万8,772人	▲35万5,353人	▲3.1%
	平均標準報酬月額	40万2,342円	39万1,645円	1万0,697円	2.7%
	平均標準賞与額	123万5,195円	119万8,548円	3万6,647円	3.1%
	平均保険料率	9.34%	9.31%	0.03ポイント	－
	実質保険料率	10.02%	10.26%	▲0.24ポイント	－

（ポイント）

- ① 被保険者数は前年度比16万3,364人（＋1.0%）増の1,702万8,075人、被扶養者数は▲35万5,353人（▲3.1%）減の1,104万3,419人。
- ② 平均標準報酬月額は＋1万697円（＋2.7%）増の40万2,342円、平均標準賞与額は＋3万6,647円（＋3.1%）増の123万5,195円。
- ③ 平均保険料率は、前年度に比べ＋0.03ポイント増の9.34%。単一組合：9.21%、総合組合：9.88%。
- ④ 加入者の健康維持・増進のための保健事業費は＋92億円（＋2.0%）増の4,765億円。
- ⑤ 平均介護保険料率は、前年度に比べ▲0.03ポイント減の1.74%。

Ⅱ. 令和6年度の財政見通し（＊現時点での粗い推計）

- 推計結果を予算と比べると、保険料収入は、6年春闘による30数年ぶりの高い賃金引き上げの効果を反映し、約2,600億円の増加が見込まれる。一方、保険給付費は、新型コロナ流行時（3～5年度）の5%超の伸びが1%台に低下し、約2,600億円減少の見込み。結果として、赤字幅は縮小することが見込まれるものの、依然として約1,000億円の赤字となる見通し。
- なお、6年度の医療費は、4-9月は新型コロナの制度的対応の反動等から+0.3%と低いが、10-1月は+2.9%と、新型コロナ影響前と同程度の伸び率に戻っており、今後の動向を慎重に見極める必要がある。

	令和6年度予算	令和6年度実績見込 【推計】	予算比増減額
経常収入計	9兆0,057億円	9兆2,700億円	+2,600億円
保険料収入	8兆8,856億円	9兆1,500億円	+2,600億円
経常支出計	9兆6,640億円	9兆3,700億円	▲2,900億円
保険給付費	5兆0,739億円	4兆8,100億円	▲2,600億円
高齢者拠出金	3兆8,792億円	3兆8,500億円	▲300億円
保健事業費	4,672億円	4,700億円	-
経常収支差引額	▲6,582億円	▲1,000億円	+5,600億円

1. 令和6年度予算は、各組合が5年12月下旬発出の予算編成通知に基づき、6年1～2月にかけて同時点で判明している過去の実績及び直近までの動向等を踏まえて見込んだものである。
2. 令和6年度実績見込【推計】は、直近7年1月までの実績及び動向に基づく推計値である（＊各値は100億円単位で四捨五入）。
3. 端数処理の関係上、各項目の計と合計が一致しない場合がある。

Ⅲ. 高齢者拠出金の推移（令和元年度～7年度）

- 1) 令和7年度の拠出金は3兆8,933億円で、対元年度比+4,589億円（+13.4%）の増加。とくに後期高齢者支援金の伸びが大きく、同+3,580億円（+18.1%）の増加。
- 2) 義務的経費（法定給付費+拠出金）に占める拠出金負担割合は、依然4割を超える状況が常態化。
- 3) 65歳以上人口は、団塊の世代が75歳以上となる7年度以降も増加し、高齢者拠出金が増え続ける一方、現役世代の減少が続くため、拠出金の負担増は必至であり、今後の財政悪化が懸念される。

高齢者拠出金の推移

	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度
拠出金計（億円）	34,344	35,456	36,515	34,057	36,526	38,792	38,933
（再掲）後期高齢者支援金	19,773	20,060	20,133	19,641	21,526	22,777	23,353
前期高齢者納付金	14,550	15,391	16,379	14,413	14,999	16,012	15,577
増減額（億円）	▲192	1,112	1,059	▲2,458	2,469	2,266	142
対前年度比伸び率	▲0.6%	3.2%	3.0%	▲6.7%	7.2%	6.2%	0.4%
義務的経費に占める拠出負担割合	46.0%	48.1%	46.7%	43.6%	44.1%	43.9%	43.6%

1. 令和元年度～4年度までは決算、5年度は決算見込、6年度は予算、7年度は予算（早期集計）の値である。
2. 「拠出金計」には、退職者給付拠出金、日雇拠出金、病床転換支援金、流行初期医療確保拠出金、出産育児関係事務費拠出金を含む。

令和7年度

健康保険組合 予算編成状況

ー 予算早期集計結果について ー

本報告は、令和7年度の各健保組合の予算編成状況について、本会へ報告（7年3月31日時点）のあった1,368組合の予算数値をもとに、7年4月1日時点に存在する1,372組合の財政状況を推計し、その結果をとりまとめたものである。

令和7年4月23日
【報道発表資料】
健康保険組合連合会

National Federation of Health Insurance Societies (KEMPOREN)

1. 令和7年度【予算】（早期集計）：経常収支の状況

- 令和7年度予算の経常収支は、▽経常収入：9兆3,936億円（対前年度予算比+4.3%増）、▽経常支出：9兆7,717億円（+1.1%増）で、経常収支差引額は▲3,782億円の赤字となる見通し。全体の約8割の組合が赤字へ。
- 保険料収入は、被保険者数の堅調な伸びや賃金引き上げ効果を反映して+4.3%（+3,829億円）の増加。一方、保険給付費は+1.5%（+785億円）の増加とやや低い伸び。これは、3年～5年度は新型コロナウイルス感染症やその他の感染症等の流行等により高い伸びが続いたが、6年度は比較的落ち着いていることを見込んだ結果と考えられる。
- 高齢者等拠出金は+0.4%（+142億円）の増加。前期高齢者納付金は、4年度の新型コロナ感染拡大の影響を反映（精算）した6年度納付金の大幅な増加（対5年度比+6.8%）の反動もあり、▲2.7%（▲435億円）と減少する一方、後期高齢者支援金は、後期高齢者数の増加を反映し、保険給付費の伸びを上回り+2.5%（+576億円）の増加となった。
- データヘルス計画等、加入者の健康維持・増進のための保健事業費は、対前年度比+2.0%（+92億円）増の4,765億円を計上した。

主な項目	令和7年度予算 (早期集計)	令和6年度予算	対前年度比	
			増減額	伸び率
経常収入 (①)	9兆3,936億円	9兆0,057億円	3,878億円	4.3%
保険料収入	9兆2,685億円	8兆8,856億円	3,829億円	4.3%
経常支出 (②)	9兆7,717億円	9兆6,640億円	1,078億円	1.1%
保険給付費	5兆1,524億円	5兆0,739億円	785億円	1.5%
拠出金等計	3兆8,933億円	3兆8,792億円	142億円	0.4%
(再掲) 後期高齢者支援金	2兆3,353億円	2兆2,777億円	576億円	2.5%
前期高齢者納付金	1兆5,577億円	1兆6,012億円	▲435億円	▲2.7%
保健事業費	4,765億円	4,672億円	92億円	2.0%
経常収支差引額 (①-②)	▲3,782億円	▲6,582億円	2,800億円	—

1. 本報告の各数値は、令和7年3月31日までに報告のあった1,368組合の数値に基づき、同4月1日時点に存在する1,372組合ベースで推計したものである。
2. 推計対象4組合のうち、7年4月1日新設の2組合を除く2組合については、6年度予算数値に当該組合が属する業態の伸び率を適用して試算した。また、新設2組合については、調査時点で被保険者数以外の数値がないため、被保険者数が同規模かつ同業態の組合の平均値を用いた。なお、推計対象4組合の被保険者数は約3万人、被保険者総数に占める割合は0.2%である。
3. 端数処理の関係上、各項目の計と合計が一致しない場合がある（以下同じ）。

2. 令和7年度【予算】（早期集計）：適用状況及び財政指標

- 組合数は、前年度比7組合減少の1,372組合（7年4月1日現在）で、▽被保険者数は、前年度に比べ16万3,364人（+1.0%）増の1,702万8,075人、▽被扶養者数は、▲35万5,353人（▲3.1%）減の1,104万3,419人、扶養率は▲0.03人減の0.65人。
- 平均標準報酬月額+1万697円（+2.7%）増の40万2,342円、平均標準賞与額は+3万6,647円（+3.1%）増の123万5,195円。
- 各組合が設定した保険料率の平均料率（単純平均）は、前年度に比べ+0.03ポイント増の9.34%。組合形態別では、▽単一組合（1,113組合）：9.21%（前年度：9.18%）、▽総合組合（255組合）：9.88%（前年度：9.87%）。
- 収支均衡に必要な実質保険料率は、▲0.24ポイント減の10.02%（単一組合：9.94%、総合組合：10.36%）。なお、設定料率が協会けんぽの平均料率（10.00%）以上の組合は335組合（単一組合：224組合、総合組合：111組合）、組合全体の24.5%。（*回答1,368組合ベース）

	令和7年度予算 （早期集計）	令和6年度予算	対前年度比	
			増減数	伸び率
組合数	1,372組合	1,379組合	▲7組合	－
被保険者数	1,702万8,075人	1,686万4,711人	16万3,364人	1.0%
被扶養者数	1,104万3,419人	1,139万8,772人	▲35万5,353人	▲3.1%
扶養率	0.65人	0.68人	▲0.03人	－
平均標準報酬月額	40万2,342円	39万1,645円	1万0,697円	2.7%
平均標準賞与額	123万5,195円	119万8,548円	3万6,647円	3.1%
平均保険料率	9.34%	9.31%	0.03ポイント	－
実質保険料率	10.02%	10.26%	▲0.24ポイント	－
特定保険料率（再掲）	3.84%	3.96%	▲0.12ポイント	－

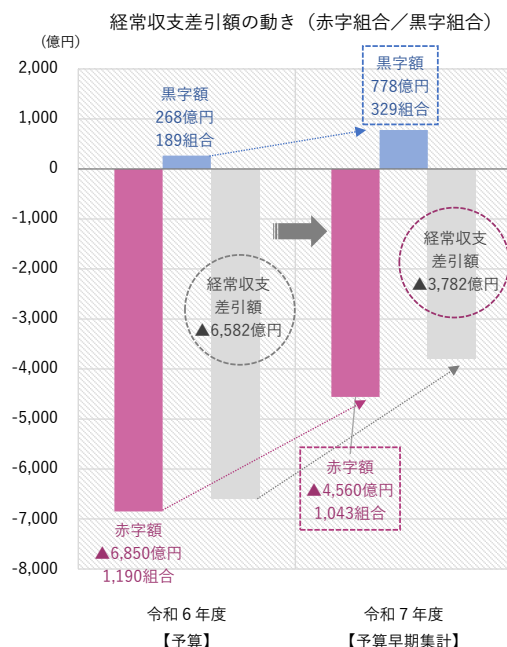
1. 平均標準報酬月額の算出にあたっては、保険料免除者（a. 育児休業保険料免除該当者、b. 産前産後休業保険料免除該当者）を除いている。
2. 平均標準賞与額の算出にあたっては、上記のa, bに加え、c. 任意継続被保険者、d. 特例退職被保険者を除いている。
3. 保険料率（平均・実質）は各組合の保険料率を単純平均したものである。なお、料率には調整保険料率を含む。

National Federation of Health Insurance Societies (KEMPOREN)

3

3. 令和7年度【予算】（早期集計）：赤字1,043組合／黒字329組合の経常収支差引額

- 赤字組合は、前年度予算に比べ147組合減少して1,043組合（構成比：76.0%）となり、赤字総額は2,291億円減の▲4,560億円となる見通し。一方、黒字組合は、140組合増加して329組合（同24.0%）となり、黒字総額は510億円増の778億円。



	令和7年度予算 （早期集計）	令和6年度予算	対前年度差
経常収入 ①	9兆3,936億円	9兆0,057億円	3,878億円
経常支出 ②	9兆7,717億円	9兆6,640億円	1,078億円
経常収支差 ①-②	▲3,782億円	▲6,582億円	2,800億円
経常収支差【赤字】			
赤字総額	▲4,560億円	▲6,850億円	2,291億円
赤字組合数	1,043組合	1,190組合	▲147組合
赤字組合の割合	76.0%	86.3%	▲10.3ポイント
経常収支差【黒字】			
黒字総額	778億円	268億円	510億円
黒字組合数	329組合	189組合	140組合
黒字組合の割合	24.0%	13.7%	10.3ポイント

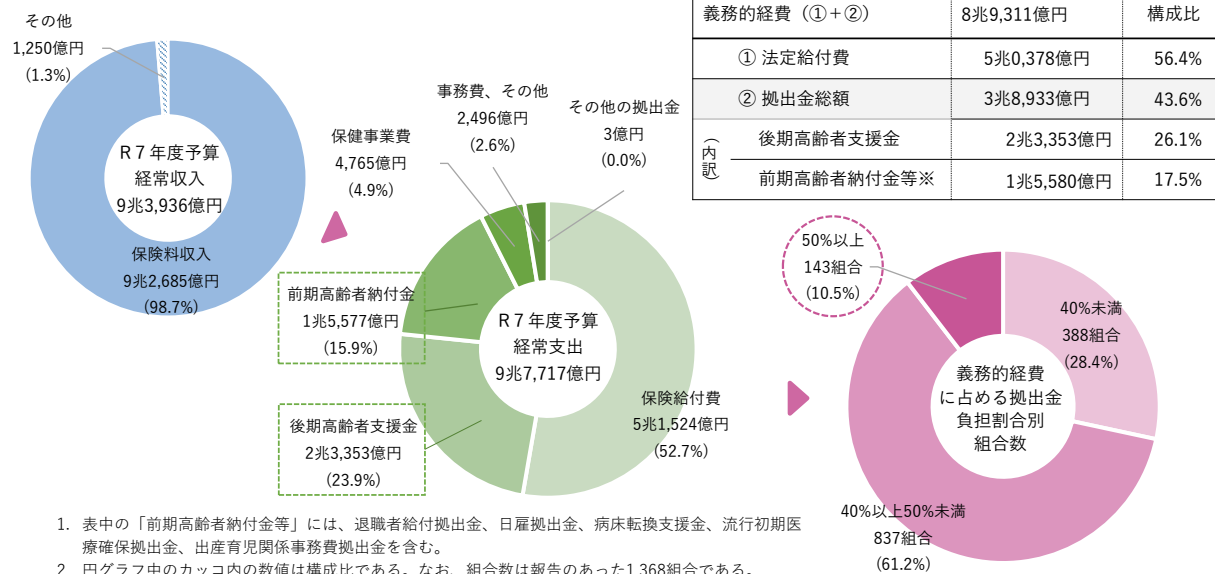
1. 令和7年度予算早期集計の赤字・黒字組合数及び赤字・黒字額は、1,372組合ベース（推計）の値である。
2. 端数処理の関係上、合計が一致しない場合がある。

National Federation of Health Insurance Societies (KEMPOREN)

4

4. 令和7年度【予算】（早期集計）：経常収入・支出の内訳及び高齢者等拠出金負担割合

- 経常収入は、総額9兆3,936億円のうち、保険料収入が9兆2,685億円で全体の98.7%を占める。一方、経常支出は、総額9兆7,717億円の主な内訳をみると、①保険給付費：5兆1,524億円（構成比52.7%）、②後期高齢者支援金：2兆3,353億円（同23.9%）、③前期高齢者納付金：1兆5,577億円（同15.9%）、④保健事業費：4,765億円（同4.9%）－となっている。
- 義務的経費（法定給付費＋高齢者等拠出金）に占める拠出金負担割合は43.6%（6年度：43.9%）。なお、負担割合が50.0%以上の組合は全体の10.5%の143組合。



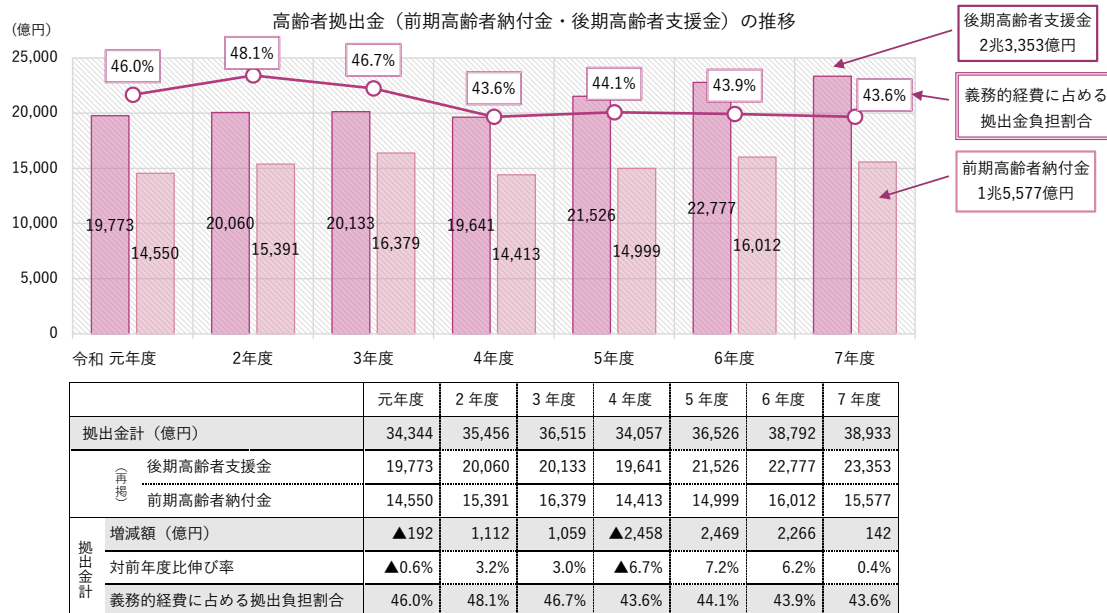
1. 表中の「前期高齢者納付金等」には、退職者給付拠出金、日雇拠出金、病床転換支援金、流行初期医療確保拠出金、出産育児関係事務費拠出金を含む。
2. 円グラフ中のカッコ内の数値は構成比である。なお、組合数は報告のあった1,368組合である。

National Federation of Health Insurance Societies (KEMPOREN)

5

5. 高齢者拠出金（前期高齢者納付金・後期高齢者支援金）の推移：令和元年度～7年度

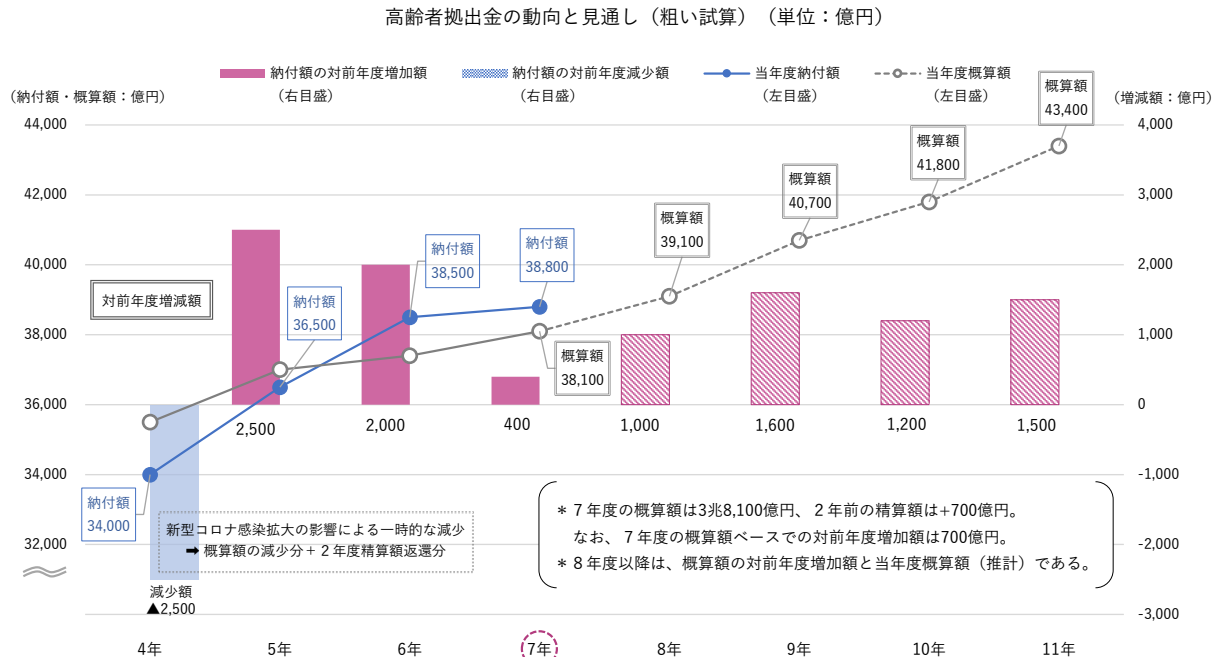
- 7年度の拠出金は3兆8,933億円で、対元年度比＋4,589億円（＋13.4%）の増加。とくに後期高齢者支援金の伸びが大きく、同＋3,580億円（＋18.1%）の増加。義務的経費（法定給付費＋拠出金）に占める拠出金負担割合は、依然4割を超える状況が常態化。
- 65歳以上人口は、団塊の世代が75歳以上となる7年度以降も増加し、高齢者拠出金が増え続ける一方、現役世代の減少が続くため、拠出金の負担増は必至であり、今後の財政悪化が懸念される。



1. 令和元年度～4年度までは決算、5年度は決算見込、6年度は予算、7年度は予算（早期集計）の値である。
2. 「拠出金計」には、退職者給付拠出金、日雇拠出金、病床転換支援金、流行初期医療確保拠出金、出産育児関係事務費拠出金を含む。

6

6. 高齢者拠出金の推移と今後の見通し：令和4年度～11年度

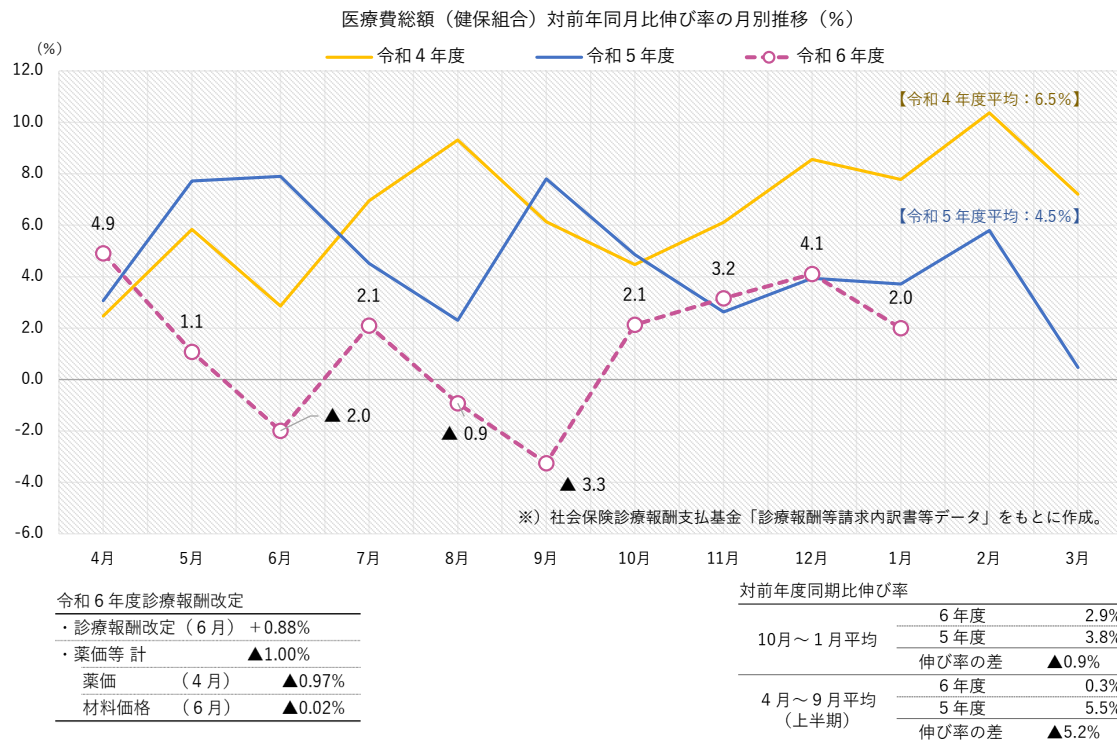


1. 加入者数（2025年度賦課の概算額ベース）を固定し、標準報酬総額と1人当たり医療費について、2026年度以降は経済成長（過去投影ケース）を反映して上昇すると見込んだ試算である。（具体的には、標準報酬総額の伸び率＝賃金上昇率、1人当たり医療費の伸び率＝経済成長率×1/3+1.8（%）としている。）
* 経済成長率の反映は「2040年を見据えた社会保障の将来見通し（議論の素材）」（内閣官房・内閣府・財務省・厚生労働省 平成30年5月）に倣っている。
経済成長（過去投影ケース）は、「中長期の経済財政に関する試算」（平成7年1月17日経済財政諮問会議・内閣府提出資料）による。
2. 当年度納付額＝「当年度概算額」＋「2年前の精算額」（* 2年前の精算額＝「2年前の確定額」－「2年前の概算額」）
3. 納付額の対前年度増加（減少）額＝概算額の対前年度増加（減少）額＋（2年前の精算額－3年前の精算額）

National Federation of Health Insurance Societies（KEMPOREN）

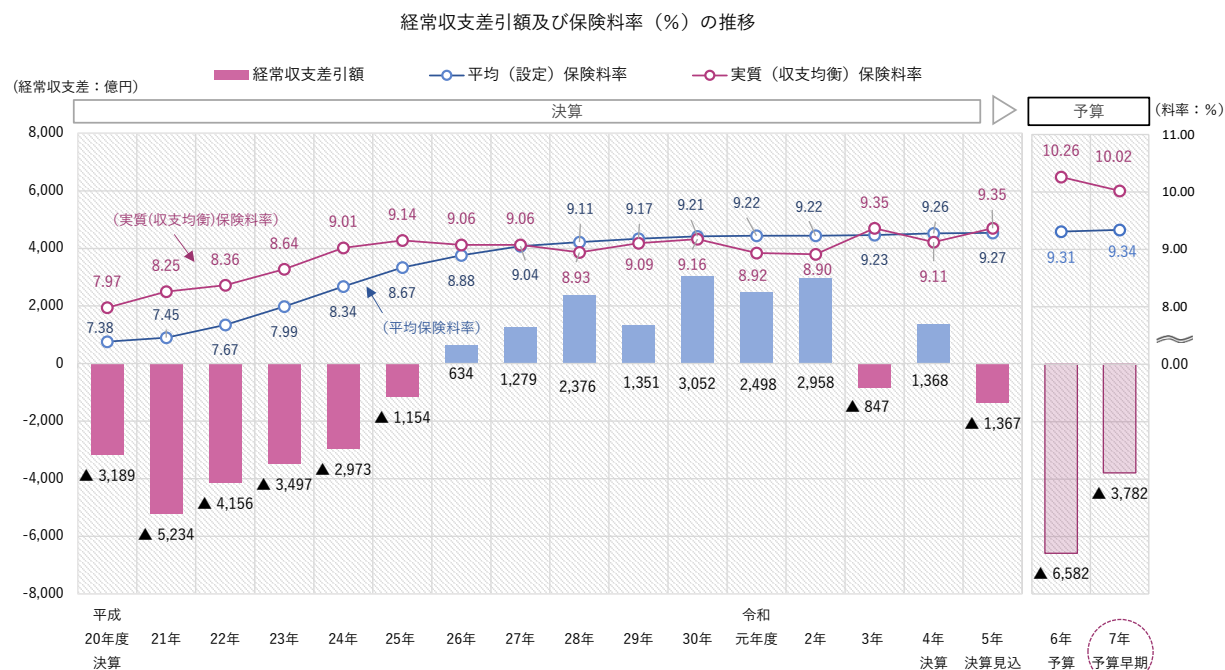
7

【参考①】医療費（健保組合）の動向：令和4年4月～令和7年1月



8

【参考②】 経常収支差引額及び保険料率の推移

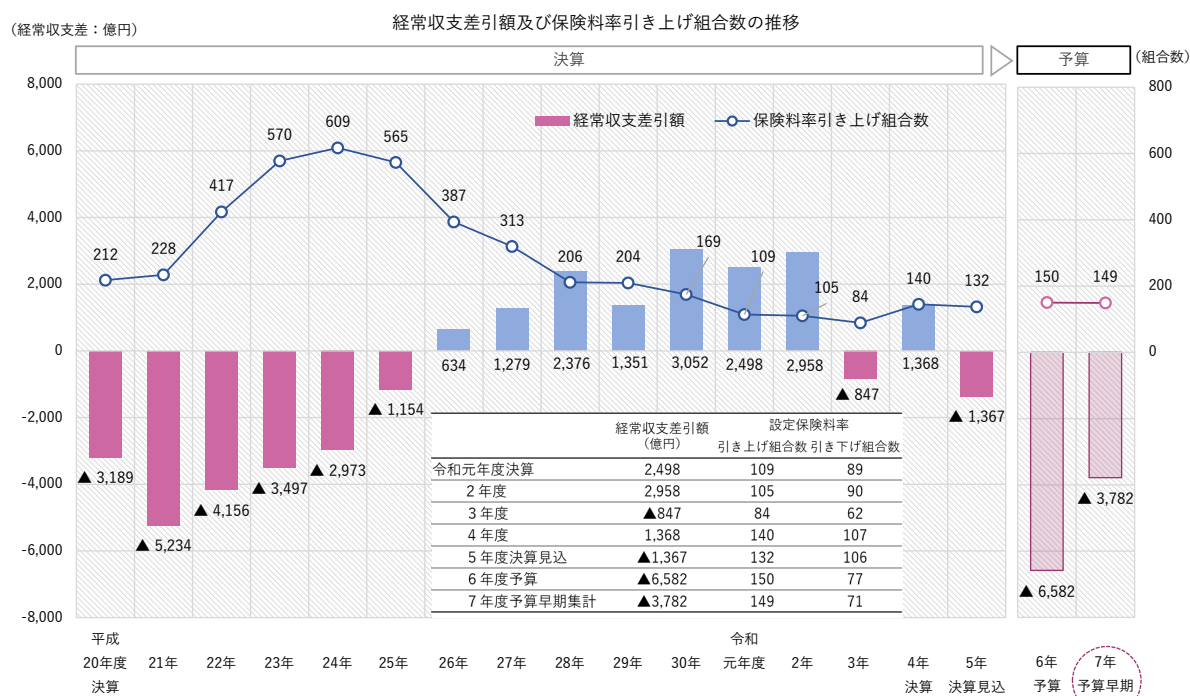


1. 平均（設定）保険料率は、一般保険料率と調整保険料率の合計であり、各組合の値を単純平均したものである。
2. 実質（収支均衡）保険料率は、以下の算式に基づき得られる実質保険料率に調整保険料率を加えた値であり、各組合の値を単純平均したものである。

$$\text{実質保険料率} = \{ \text{各組合の経常収入合計} - (\text{各組合の健康保険料収入の保険料合計}) \} \div \text{各組合の総報酬額合計}$$
3. 調整保険料率は、平成22年度までは0.12%、平成23年度以降は0.13%である。

9

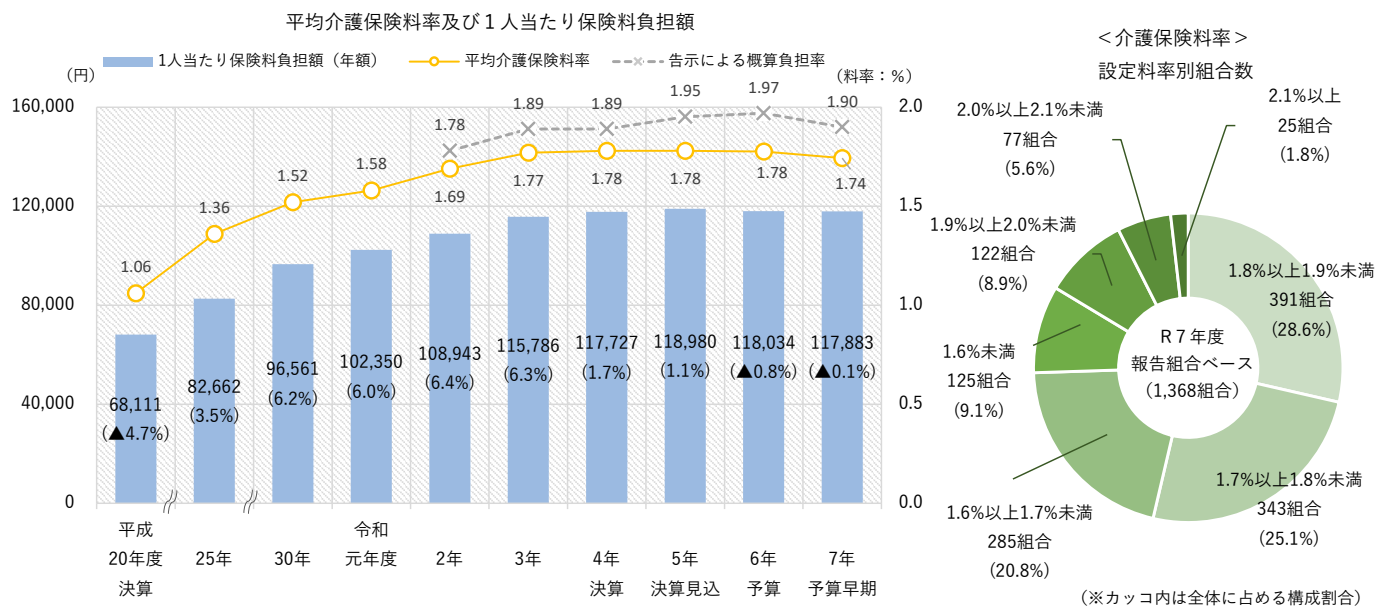
【参考③】 経常収支差引額及び保険料率引き上げ組合数の推移



* 令和7年度の料率引き上げ組合数は、6年度-7年度両年度にわたり報告のあった1,367組合に基づく数値である（以下、同様）。

【介護保険】令和7年度【予算】（早期集計）：平均保険料率及び料率設定状況

- 令和7年度予算の平均介護保険料率（設定保険料率）は、前年度に比べ▲0.03ポイント減の1.74%。
- 第2号被保険者たる被保険者1人当たり保険料負担額（年額）は、対前年度比▲151円（▲0.1%）減の11万7,883円。
- 設定保険料率が1.90%以上（告示による概算負担率※）の組合は224組合（全体の16.4%）。



1. 令和7年度は報告のあった1,368組合に基づく数値である。なお、棒グラフ中のカッコ内の値は対前年度比伸び率を示している。
2. 告示による令和7年度の概算負担率「0.01902575」である。なお、5年度の概算負担率は1.95%、確定負担率は1.62%（▲0.32%）である（参考数値）。
3. 介護納付金は令和2年度より全面総報酬割が導入されている。